



WASEDA ROPE

H.29.8.17

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

札幌市 地域セミナー 報告書

2017（平成 29）年 8 月 16 日（水）に、「スポーツ庁 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」札幌市地域セミナーが開催されました。当日は、札幌市の先生方 144 名（幼稚園 1 名、小学校 76 名、中学校 46 名、高等学校 10 名、特別支援学校 11 名）と市民 5 名の計 149 名にご来場いただき、下記の要領で盛会の裡に終了いたしました。

【開催概要】

日時：2017（平成 29）年 8 月 16 日（水）9 時 45 分～11 時 30 分

会場：札幌市生涯学習総合センター「ちえりあ」

主催：札幌市コンソーシアム、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：149 名

プログラム：「今、札幌の子どもに伝えたい！～オリンピック・パラリンピックから得たもの～」

9:45～9:50 開会挨拶と登壇者紹介

コーディネーター 北海道教育大学 岩見沢校 教授 山本 理人 氏

パネリスト 日本パラリンピアンズ協会 理事 永瀬 充 氏

バレーボール元日本代表 成田 郁久美 氏

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

主幹研究員 吉永 武史 氏

9:50～10:40 対談Ⅰ：スポーツとの出会いとオリンピック・パラリンピックの思い出

10:40～11:15 対談Ⅱ：スポーツの魅力

11:15～11:30 対談Ⅲ：札幌の子どもたちに伝えたいこと

開会行事では、司会より開会の挨拶があり、続いてパネリストの紹介がありました。



開会の様子



山本 理人氏

対談Ⅰでは、パネリストがスポーツと出会い、オリンピック・パラリンピック出場に至るまでのお話をしていただきました。永瀬氏からは、自らが障害を負うまでの経緯、雑誌をきっかけにアイススレッジホッケー（現パラアイスホッケー）に出会ったこと、そしてパラリンピックではそれまで 3 大会連続 5 位だったがバンクーバー大会で初めて 2 位になりメダルを獲得したときのことについてお話いただきました。成田氏からは、小

学校4年生のときに担任の先生の誘いでバレーボールを始め、小学校6年生のときに全国優勝したこと、高校では寮生活でほぼ毎日練習に励んだこと、日本代表に選ばれた際には自分の役割や得意なプレーを強みとして活かすことができたこと、そしてオリンピックシドニー大会への出場権を逃したときにメディアから批判されて辛かったことなどについてお話しいただきました。吉永氏からは、オリンピック・パラリンピックが社会変革の契機になることや子どもに感動を与える可能性を持っていること、本オリンピック・パラリンピック教育事業の概要、昨年度のオリンピック・パラリンピック教育の効果についてお話しいただきました。



永瀬 充 氏



成田 郁久美 氏



吉永 武史 氏

対談Ⅱでは、特にパラリンピックの種目について永瀬氏よりクイズ形式で紹介していただきました。学校の部活動を中心とする日本の子どものスポーツ環境では、パラスポーツの普及が遅れており、パラリンピアンが中心となって少しずつ活動の幅を広げて普及を進めていきたいというお話をさせていただきました。

対談Ⅲでは、いま子どもに伝えたいことをそれぞれのパネリストからお話しいただきました。永瀬氏からは「障害は車いすに乗っていることではなく、車いすに乗っている人を阻む壁（社会）である」という考えから、その壁を変えていくためにパラリンピックがもつ可能性は大きいということをお話しいただきました。また、次期学習指導要領に「パラリンピック」が入ることやパラリンピックの教材（「I'm Possible」）が開発されていることなどから、学校教育の中でパラリンピックが取り上げられることへの期待についてもお話しいただきました。成田氏からは、「スポーツは心をつなぐことが大切である」という考えから学校教育におけるスポーツ活動の充実の重要性についてや、自らも積極的に子どものスポーツ活動を促進する活動をしていきたいという抱負についてお話しいただきました。吉永氏からは、オリンピック・パラリンピック教育が人々の多様性を理解するためのよい材料になること、そして札幌市は冬季オリンピックを開催した都市であり、「札幌オリンピックミュージアム」という貴重な施設も有していることから、オリンピック・パラリンピック教育の新しい取り組みに期待がもてることをお話しいただきました。最後に山本氏から、2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会は一つの契機であり、この大会をどう活用し何が後世に残せるのかということが重要であるということをお話しいただきました。また、学校における具体的なオリンピック・パラリンピック教育の展開に関しては今後の課題であり、参加された先生方にかかっているという激励の言葉を頂き、閉会となりました。



札幌オリンピックミュージアム



対談の様子



パネリストの集合写真